



中央ウェイ

7月号

「聞こえない人からの贈り物」

主幹教諭 谷村隆人

いよいよ夏本番に向かって行く時期となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。中学部主任の谷村です。4月に新1・4年生を迎えてから、早や3か月が経ちました。新たな人間関係が生まれ、交流する中で、日々の授業・部活動・行事等の中でそれぞれの生徒が「創造・挑戦・勇気」の力を磨きながら、コミュニケーションをしている姿をまぶしく見つめる日々です。

私の出身中学は、校庭1周80mの小さな学校でした。小さな敷地の校舎に180人くらいの中学生が過ごしているの、常に人がひしめき合っていました。ところが私は、小学生の時から「おしゃべり」というものがさっぱり苦手で、またその楽しさを感じることもできなかったの、「喫茶店」や「カフェ」というものの存在価値に疑問を抱くほどでした。

大学1年生の春に、地域の手話講習会に通い始めました。中学生の頃から文化の色濃い中国の少数民族に興味があり、「マイノリティには独特の文化や価値観があるようだ」という感覚で、自分の視野を広げようと飛び込んだ世界でした。すると、おしゃべり下手な私の話を、聞こえない人たちは熱心に見てくれるのです。丁寧に助言をしてくれるのです。「これはしゃべらないわけにはいかない」と思い、なりふり構わずおしゃべりをするうちに、その楽しさが感じられるようになってきたのです。

大学卒業後は、営業職や通訳業で意思疎通技術を磨きました。その甲斐もあって、今では本校の自立活動の授業で「おしゃべりのコツ」から「プレゼンテーション」「模擬面接練習」まで、幅広くコミュニケーションを取り上げた授業を行っています。

本校では1～3年次の教育目標として「多様なコミュニケーション手段を身に付け、社会生活の基礎となる言語力を高める」「思いやりの心を育て、規範意識と協調性を高める」ということを掲げています。コミュニケーションは相互行為です。「伝える」ためにはまず「相手を思いやる」ことが必要であり、「聞いてもらう」ためにはまず相手の話を「聞く」必要があります。時には質問や補足、確認などをしながら、協同的に進めていくものです。コミュニケーションの目的は相互発展であり、どちらか一方が利を得ることではありません。

今では、よくカフェに行くようになりました。この「おしゃべり」という共同作業の楽しさを教えてもらった恩返しに、また「ろう学校」というコミュニティの仲間に入れていただいたことへの感謝を込めて、生徒や保護者の皆様とより良いコミュニケーションをしていきたいと思ひます。

※全日本ろうあ連盟の方針に基づき「聞こえない人」「聞こえにくい人」という言葉を包括的に捉え、「聞こえない人」と表記しています。